

社会医療法人恵愛会 大分中村病院群

# 医師臨床研修 プログラム

2017年度版

2017年4月1日発行



## 臨床研修の基本理念

臨床研修は、医師が、医師としての人格をかん養し、将来専門とする分野にかかわらず、医学及び医療の果たすべき社会的役割を認識しつつ、一般的な診療において頻繁に関わる負傷又は疾病に適切に対応できるよう、基本的な診療能力を身に付けることのできるものでなければならない。

厚生労働省



社会医療法人恵愛会  
大分中村病院  
院長 中村 太郎

## はじめに

大分中村病院（260床、21診療科）は、大分市の中心部（県庁隣接地、府内五番街を歩いてトキハデパートまで徒歩5分、大分駅まで徒歩10分）に位置しています。「医療による社会貢献」を理念に掲げる県内最大規模の急性期医療提供する民間病院です。

二次救急病院（救急搬送は年間2000台を超え、大分市内の病院では1~2の多さ）として、総合救命救急センター（ER NAKAMURA）を核に大分県民のライフラインを支えています。電子カルテシステムをいち早く導入し、MRI、CT、アンギオ、RI、エコーなど最新の医療機器を備えています。総合リハビリテーションセンターを有し、超急性期から回復期までのシームレスな医療を提供しています。さらに自院のみならず60を超えるクリニックや老人・福祉施設と連携し「地域医療連携センター」を構築しています。

社会活動として、パラリンピック日本チームへの医師・看護師の派遣や大分国際車いすマラソン大会の医療サポートなど行っています。

## 研修プログラムの特色

初期臨床研修では当院が掲げている「医療による社会貢献」の基本理念のもとに、地域に密着した第一線の医療現場での初期臨床研修を行い、幅広い確実な診療能力を修得することを目指すのが特色です。

### 救急医療

総合救命救急センター（ER Nakamura）には県内各地より年間2000台を超える救急搬送があります。急性上気道炎や腹痛といったcommon diseaseから、急性心筋梗塞、クモ膜下出血、腸穿孔、開放骨折、四肢の切断といった重篤で緊急手術を要するような疾患、さらには多発外傷、来院時心肺停止（CPA）といった多科に及ぶ集中治療が必要な疾患まで、豊富な救急症例を、経験に富んだ指導医とともに、総合的な研修ができます。

### 指導医による研修

循環器内科、腎臓内科（人工透析センターで1日40名の透析）内科、感染症内科、消化器内科、糖尿病内科、外科、整形外科、脊椎外科、手外科、脳神経外科、形成外科、泌尿器科、婦人科、リハビリテーション科、麻酔科の専門医による研修が可能です。一方で「チーム医療」が実践されていて、「専門科」による壁はなく、他科の専門医に気軽にコンサルテーションできます。

選択研修では、各専門医の指導のもとに専門領域の医療をより深く研修することができます。

選択必修科目（外科・麻酔科・小児科・産婦人科・精神科）は、よりよい臨床研修を実践し臨床研修の到達目標を達成するために、原則として全て1ヶ月間以上研修することになっています。大分大学医学部附属病院（内科系・外科系・産婦人科・放射線科・麻酔科（集中治療部））との「たすきがけ研修」ができます。

病院全体の職員講習会・講演会への参加、感染症予防対策や医療安全管理等の活動を実践することにより、医療安全の基本を修得することができます。

「BLS」, 「ICLS」, 「エコー勉強会」, 「ERカンファレンス」, 「心電図勉強会」, 「感染症実践塾」, 「心臓リハビリテーション勉強会」, 「がん化学療法・緩和ケア勉強会」, 「糖尿病勉強会」等に参加し、より実地に則した研修をすることができます。

### 地域医療

地域医療の研修は、患者の日常の生活に接し、かつその地域の特性に即した医療を実践し研修するために、離島診療所・へき地診療所・地域の中小病院・診療所にて研修を行います。当院では、約60の地域のクリ

ニック・診療所との連携を取りながら、開放病床を導入しています。

## リハビリテーション・社会福祉など

リハビリテーション部門では、総合リハビリテーションセンター（理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、ソーシャルワーカー）や回復期リハビリテーション病棟（59床）で個々の患者ごとに治療計画を作成し、早期離床に務めており、超急性期から回復期までのシームレスな研修ができます。

社会復帰促進のため地域医療連携センターを設け、各種相談に応じる一方、社会福祉法人「太陽の家」との連携を密にしており、社会福祉、地域医療の研修ができます。

当院の理念と基本方針の実現に日夜取り組んでいる熱心で優秀な指導医による研修が、皆さんにとって有益で最適な初期研修となることを期待しています。

### 臨床研修プログラムの概要

#### 病院の概要

当院は、大分市の中心部に位置し、「医療による社会貢献」を理念として掲げ、実践している一般病院である。関連施設である「社会福祉法人太陽の家」等と連携を図り、「大分車椅子マラソン」、「パラリンピック」など障がい者スポーツにも協力している。

当院は大分保健医療圏における二次救急医療機関であり、年間の救急患者数は延べ8千人におよぶ。整形外科、外科、脳神経外科、形成外科、泌尿器科等の外科系専門医による複合外傷に対応する一方、循環器内科、消化器内科、腎臓内科等の内科系専門医によるPTCA・ステント留置、内視鏡検査・処置、血液浄化などの救急処置など、各専門領域医療の横断的な連携のもとに、救急医療を行っている。また、地域に密着したCommon Diseasesの診療、リハビリテーション医療を行っている。

- 1) 病床数 260床
- 2) 診療科 整形外科・脊椎外科・手外科・外科・脳神経外科・内科・循環器内科・消化器内科・腎臓内科・糖尿病内科・呼吸器内科・形成外科・泌尿器科・リハビリテーション科・肛門外科・リウマチ科・心臓血管外科・産婦人科・眼科・放射線科・皮膚科・麻酔科
- 3) 研修施設認定  
厚生労働省臨床研修指定病院（基幹型・協力型） 日本がん治療認定医機構認定研修施設  
日本内科学会認定医制度教育関連病院 日本手外科学会専門医基幹研修施設  
日本整形外科学会整形外科専門医研修施設 日本熱傷学会熱傷専門医認定研修施設  
日本脳神経外科学会専門医認定制度指定訓練施設 日本透析医学会専門医制度教育関連病院  
日本形成外科学会認定医研修施設 日本静脈経腸栄養学会NST稼働施設  
日本救急医学会救急科専門医指定施設  
日本外科学会専門医制度関連施設  
日本呼吸器学会教育関連施設  
日本感染症学会研修施設  
日本循環器学会専門医研修施設  
日本消化器病学会大分大学付属病院関連施設  
日本消化器外科学会大分大学附属病院関連施設  
日本消化管学会胃腸科指導施設  
日本麻酔科学会麻酔科認定病院



## 研修プログラムの特色

プログラム責任者：整形外科副部長（手外科） 園田 広典  
副プログラム責任者：内科部長 那須 勝

初期臨床研修では、医師としての人格を涵養するとともに、プライマリーケアを中心とした全人的医療を施すことができ、幅広い基本的な診療能力を身につけることが求められている。本院での研修プログラムは、本院が掲げている「医療による社会貢献」の基本理念のもとに、地域に密着した第一線の医療現場での初期臨床研修を行い、確実な診療能力を修得することを目指すのが特色である。

当院は大分保健医療圏における二次救急医療機関であり、内科系専門医、外科系専門医による密な横断的な連携のもとに、救急医療に対する総合的な研修ができる。

当院での研修期間には、指導医とともに所属する診療科に搬送された救急患者の対応を行い、救急医療の研修ができる。

当院は地域の診療所との連携を取りながら、開放病床を導入し、社会復帰促進のため地域医療連携センターを設け各種相談に応じる一方、離島診療所・地域の中小病院とも連携し、さらに社会福祉法人太陽の家（関連施設）との連携を密にしており、社会福祉、地域医療の研修ができる。

リハビリテーション部門では、個々の患者ごとに治療計画を作成し早期離床に務めており、超急性期から回復期までのリハビリテーションの研修ができる。

臨床研修における到達目標を十分に達成するため、原則として、選択必修としている全ての研修科目を研修する。

選択研修では、各専門医の指導のもとに専門領域の医療をより深く研修することができる。

「BLS」<sup>1</sup>、「ICLS」<sup>2</sup>、「ER カンファレンス」<sup>3</sup>、「エコ - 勉強会」<sup>4</sup>、「心電図勉強会」<sup>5</sup>、「感染症実践塾」<sup>6</sup>、「心臓リハビリテーション勉強会」<sup>7</sup>、「がん化学療法・緩和ケア勉強会」<sup>8</sup>、「糖尿病勉強会」<sup>9</sup>、「各科のカンファレンス」<sup>10</sup>などに参加し実地に則した基本的な技術・知識を修得することができる。

病院全体の職員講習会・講演会への参加、感染予防対策や安全管理等の活動を実践することにより、医療安全の基本を修得することができる。

大分大学医学部附属病院（内科系・外科系・産婦人科・放射線科・麻酔科（集中治療部））において、「たすきがけ研修」をすることができる。

## 研修体制

当院を基幹型臨床研修病院とし、5カ所の協力型臨床研修病院と、10カ所の臨床研修協力施設とともに大分中村病院群を形成する。

### 大分中村病院臨床研修病院群

NO.	種別	担当分野	名称
1	基幹型臨床研修病院	内科・外科・救急(麻酔)	大分中村病院
2	協力型臨床研修病院	小児科	大分こども病院
3	協力型臨床研修病院	精神科	帆秋病院
4	協力型臨床研修病院	地域医療	明野中央病院
5	協力型臨床研修病院	地域医療	竹田医師会病院
6	協力型臨床研修病院	内科系・外科系・産科婦人科・放射線科・麻酔科(集中治療部)	大分大学医学部附属病院
7	臨床研修協力施設	産科婦人科	みぞぐち産科婦人科医院
8	臨床研修協力施設	産科婦人科	岩永レディースクリニック
9	臨床研修協力施設	地域医療	佐賀関病院
10	臨床研修協力施設	地域医療	ハートクリニック
11	臨床研修協力施設	地域医療	津久見保戸島診療所
12	臨床研修協力施設	地域保健	介護老人保健施設健寿荘
13	臨床研修協力施設	地域保健	社会福祉法人太陽の家 身体障がい者支援施設ゆうわ
14	臨床研修協力施設	地域保健	東部保健所
15	臨床研修協力施設	地域保健	北部保健所
16	臨床研修協力施設	地域保健	南部保健所

## 研修スケジュール

### 1年目（例示）

4月	<p>オリエンテーション（1週間）</p> <p>内科（循環器・消化器・糖尿病） 原則として、各診療分野を、1~2ヶ月ごとにローテート</p>	救急研修		
5月				
6月				
7月				
8月				
9月				
10月			<p>外科系 （整形外科・外科・脳神経外科・脊椎外科・形成外科・ 手外科・泌尿器科含む）</p> <p>麻酔科</p> <p>外科を基本に、1診療科以上選択ローテート</p>	救急研修
11月				
12月				
1月				
2月				
3月				

### 2年目（例示）

4月	地域医療（へき地・離島診療所、中小病院、診療所等）	救急研修
5月	<p>選択研修（11ヶ月）</p> <p>協力型臨床研修病院で精神科、小児科、産婦人科を各1ヶ月必ず研修をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大分中村病院 循環器内科、消化器内科、腎臓内科、糖尿病内科、整形外科、外科、脳神経外科、脊椎外科、形成外科、手外科、泌尿器科、麻酔科</li> </ul> <p>（介護老人保健施設『健寿荘』、社会福祉法人「太陽の家」身体障がい者支援施設『ゆうわ』における地域保健研修も選択できる）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大分大学医学部附属病院（たすきがけ） 呼吸器内科、内分泌・糖尿病内科、膠原病内科、腎臓内科、神経内科、循環器内科、血液内科、腫瘍内科、消化器外科、呼吸器外科、小児外科、心臓血管外科、脳神経外科、整形外科、形成外科、乳腺外科、放射線科、産科婦人科、麻酔科（集中治療部）</li> </ul> <p>注）たすきがけとは、大分中村病院をベースに大分大学医学部附属病院で研修すること。研修期間は、1ヶ月~3ヶ月間</p>	
6月		
7月		
8月		
9月		
10月		
11月		
12月		
1月		
2月		
3月		

- 1) 1年間の初期研修は、原則としてオリエンテーション約1週間を含めた必修科目(内科6ヶ月、救急3ヶ月、地域医療1ヶ月) 選択必修科目(外科(麻酔科含む) 小児科、産婦人科、精神科) および選択研修(地域保健研修含む)を行う。
- 2) 1年目は、研修開始時のオリエンテーション約1週間、原則として、内科研修6ヶ月間、外科研修(麻酔科含む)6ヶ月間の研修を行う。
- 3) 2年目は、協力型臨床研修病院、臨床研修協力施設も含め、到達目標達成のために、小児科1ヶ月、産婦人科1ヶ月、精神科1ヶ月、地域医療1ヶ月のローテート研修を行う。
- 4) 本院の特色とする救急医療は、1年次・2年次の2年間を通して行い、その研修日数を合計して3ヶ月間以上となるようにローテートする(救急研修は、原則1日/週で設定する)。  
また本院での選択研修の期間は、随時各診療科に搬送される救急患者を対応し、救急医療の研修を行う。
- 5) 2年目の選択研修では、大分大学医学部附属病院の内科系・外科系・放射線科・麻酔科(集中治療部)の診療科で1ヶ月~3ヶ月間の研修をすることができる(たすきがけ研修)。
- 6) 外来、病棟、当直、検査等の業務  
指導医のもとに外来診療を行い、病棟では受け持ち患者の診断、治療等を行い、当直研修を行う。  
指導医のもとに注射(IVHを含む) 採血、手術、検査などの基本的な医療行為を研修する。
- 7) 臨床病理検討会(CPC)  
すべての研修医は出席する。
- 8) 院内講習会・講演会・院内勉強会・カンファレンス、すべての研修医は積極的に参加する。

## 研修ローテーション

### 必修科目および選択必修科目

オリエンテーションの未受講者は、臨床研修を受けることはできない。

選択必修科目(外科〔麻酔科含む〕・小児科・産婦人科・精神科)は、原則として、到達目標達成のために全て研修することとする。

オリエンテーション	研修最初の約1週間、医師としての基本的姿勢、病院の概要、医療保険制度、医療におけるIT、病診連携、リスクマネジメント、感染対策、個人情報保護法、在宅医療、脳死判定、臓器移植などについて、オリエンテーションを受ける。
内科研修(6ヶ月)	原則として、循環器 / 消化器 / 糖尿病 に分かれて研修する。
外科研修(6ヶ月)	外科、整形外科、脊椎外科、手外科、脳神経外科、形成外科、泌尿器科、および麻酔科の診療科のうち、外科を基本に1診療科以上を選択し研修する。
救急研修(3ヶ月)	ER、HCU、救急外来において救急医療の基本を修得する。
小児科研修(1ヶ月)	大分こども病院にて研修する。
精神科研修(1ヶ月)	帆秋病院にて研修する。
産科婦人科研修(1ヶ月)	みぞぐち産婦人科医院、岩永レディスクリニック、大分大学医学部附属病院産科婦人科にて研修する。
地域医療(1ヶ月)	明野中央病院、佐賀関病院、竹田医師会病院、ハートクリニック、津久見保戸島診療所を適宜選択し、研修する。

救急研修は、原則1日/週 とし、指導医のもとでER外来を担当する。(必修研修3ヶ月間以上)



## 選択研修

- 1) 原則 11 ヶ月間、希望する診療科を選択する。  
到達目標達成のために、協力型臨床研修病院にて小児科・産婦人科・精神科を各 1 ヶ月必ず研修する。
- 2) 必修科目および選択必修科目で修得できなかった項目を補うほか、専門科へのステップと位置づけることが出来る。
- 3) 2 診療科以上を選択研修することが出来る。
- 4) 選択研修は、以下の診療科とする。

大分中村病院：

循環器内科、消化器内科、糖尿病内科、外科、整形外科、脊椎外科、手外科、脳神経外科、形成外科、泌尿器科、麻酔科（順不同）

大分大学医学部附属病院：

呼吸器内科、内分泌・糖尿病内科、膠原病内科、腎臓内科、神経内科、循環器内科、血液内科、腫瘍内科、消化器外科、呼吸器外科、小児外科、心臓血管外科、脳神経外科、整形外科、形成外科、乳腺外科、産科婦人科、放射線科、麻酔科（集中治療部）（順不同）（1～3 ヶ月間たすきがけ研修）

また介護老人保健施設『健寿荘』、社会福祉法人「太陽の家」身体障がい者支援施設『ゆうわ』における研修も選択出来る。

## 指導体制

- 1) 当院の総合臨床研究センターに、卒後臨床研修センター(以下、センター)を置き、臨床研修全般を管轄する。
- 2) センターには、臨床研修管理委員会(以下、管理委員会)を置き、センター長が委員長を務め、研修プログラムと研修方針の決定、研修医全体の管理や研修評価等、研修医に関する事項を協議する。
- 3) 臨床研修は、指導医による 1 対 1 指導体制を原則とする。
- 4) 指導医は、研修医の研修プログラムの遂行、総括的な指導およびその評価を行い、センター長へ報告する。
- 5) センター長は、随時研修医が研修期間に目標を達成できるように調整する。
- 6) 研修評価

センター長は、指導医の評価報告に基づき、管理委員会へ回り、目標の到達状況を評価する病院長は、管理委員会の研修評価の結果を受けて、研修修了証書を交付する。なお、評価の結果、臨床研修の修了が認められない場合は、その旨を当該研修医に文書で通達する。

## 平成 29 年度 大分中村病院 臨床研修管理委員会 名簿

平成 29 年 4 月 1 日現在

氏名	所属	役職	備考
中村 太郎	大分中村病院	理事長、院長	病院の管理者
園田 広典	大分中村病院	整形外科副部長	研修管理委員・プログラム責任者
那須 勝	大分中村病院	総合臨床研究センター長	研修管理委員会委員長・副プログラム責任者
田北 親寛	大分中村病院	脊椎外科部長	研修管理委員会副委員長
濱田 暁子	大分中村病院	事務長	事務部門責任者

氏名	所属	役職	備考
藤 本 保	大分こども病院	院 長	研修実施責任者
帆 秋 伸 彦	帆秋病院	院 長	研修実施責任者
木 下 昭 生	明野中央病院	院 長	研修実施責任者
檜 原 久 司	大分大学医学部 産科婦人科	教 授	研修実施責任者
増 永 義 則	佐賀関病院	院 長	研修実施責任者
石 井 一 誠	竹田医師会病院	院 長	研修実施責任者
溝 口 洋 一	みぞぐち産婦人科医院	院 長	研修実施責任者
岩 永 成 晃	岩永レディースクリニック	理事長、院長	研修実施責任者
小 野 隆 宏	ハートクリニック	院 長	研修実施責任者
荒 木 康 雄	津久見保戸島診療所	所 長	研修実施責任者
増 井 玲 子	介護老人保健施設健寿荘	施設長	研修実施責任者
佐 藤 篤	社会福祉法人太陽の家 身体障害者支援施設ゆうわ	施設長	研修実施責任者
内 田 勝 彦	東部保健所	所 長	研修実施責任者
佐 藤 紀 美 子	南部保健所	所 長	研修実施責任者
大 神 貴 史	北部保健所	所 長	研修実施責任者
安 武 千 恵	安武クリニック	院 長	有識者（外部医師）
大 林 正 明	大分中村病院	副院長、脳神経外科部長	研修管理委員
七 森 和 久	大分中村病院	副院長、整形外科部長、リハビリ テーション科部長	研修管理委員
渡 邊 充	大分中村病院	副院長、内科部長、救急部副部長	研修管理委員
矢 野 彰 一	大分中村病院	泌尿器科部長	研修管理委員
永 澤 一 郎	大分中村病院	麻酔科部長	研修管理委員
亀 淵 克 彦	大分中村病院	副院長、形成外科部長、手外科セ ンター長	研修管理委員
石 飛 裕 和	大分中村病院	消化器疾患・内視鏡センター長	研修管理委員
西 田 純 一	大分中村病院	産婦人科部長	研修管理委員
瀧 本 理	大分中村病院	脳神経外科副部長	研修管理委員
中 石 徹	大分中村病院	循環器内科部長、医局長	研修管理委員
麓 祥 一	大分中村病院	外科部長	研修管理委員
鎗 水 浩 治	大分中村病院	糖尿病内科部長	研修管理委員
工 藤 治 彦	大分中村病院	麻酔科部長	研修管理委員
山 田 み ゆ き	大分中村病院	看護部長	研修管理委員
小 畑 伸 博	大分中村病院	薬剤部長	研修管理委員

（順不同）

# 研修プログラムに関する指導医・上級医

平成 29 年 4 月 1 日現在

担当分野	氏名	所属	臨床経験年数	資格	備考
内科	那須 勝	大分中村病院総合臨床研究センター・内科	51年	日本内科学会認定医・指導医、日本感染症学会専門医・指導医、日本呼吸器学会専門医・指導医、日本臨床検査医学会臨床検査専門医、臨床検査管理医、日本化学療法学会抗菌化学療法指導医	臨床研修管理委員会委員長・副プログラム責任者
小児科	藤本 保 他	大分こども病院			
精神科	帆秋伸彦 他	帆秋病院			
地域医療	木下昭生 他	明野中央病院			
地域医療	増 永 義 則	佐賀関病院			
地域医療	石 井 一 誠	竹田医師会病院			
地域医療	荒 木 康 雄	津久見市 保戸島診療所			
地域医療	小 野 隆 宏	ハートクリニック			
産科 婦人科	檜原久司 他	大分大学医学部			
産科 婦人科	溝口洋一 他	みぞぐち産婦人科医院			
産科 婦人科	岩 永 成 晃	岩永レディースクリニック			
地域保健	増 井 玲 子	介護老人保健施設健寿荘			
病理	蒲池綾子	大分市医師会立アルメイダ病院 病理部長		日本病理学会認定病理専門医、日本臨床細胞学会細胞診指導医、日本臨床検査医学会臨床検査専門医	
整形外科	中 村 太 郎	大分中村病院	32年	日本整形外科学会専門医	理事長 病院長
脳外科	大 林 正 明	大分中村病院	39年	日本脳神経外科学会専門医	副院長
泌尿器科	矢 野 彰 一	大分中村病院	35年	日本泌尿器科学会専門医、日本透析医学会専門医	
整形外科	七 森 和 久	大分中村病院	33年	日本整形外科学会専門医、日本リハビリテーション医学会認定臨床医	副院長
内科 糖尿病	鎗水浩治	大分中村病院	31年	日本内科学会認定内科医、総合内科専門医、日本糖尿病学会専門医、研修指導医、日本医師会認定産業医	
形成外科	亀 淵 克 彦	大分中村病院	30年	日本形成外科学会専門医、日本熱傷学会専門医、日本手外科学会専門医、日本創傷外科学会専門医	副院長
脳外科	瀧 本 理	大分中村病院	27年	日本脳神経外科学会専門医 日本救急医学会救急科専門医	
内科 循環器科	渡 邨 充	大分中村病院	27年	日本内科学会認定医・指導医、総合内科専門医、日本循環器学会専門医、日本心血管インターベンション治療学会認定医	副院長
内科 循環器科	中 石 徹	大分中村病院	26年	日本循環器学会専門医、日本内科学会認定医、総合内科専門医、日本循環器学会専門医、日本心血管インターベンション治療学会専門医	
麻酔科	工 藤 治 彦	大分中村病院	24年	日本麻酔科学会 麻酔科指導医および麻酔科専門医	
麻酔科	永 澤 一 郎	大分中村病院	33年	日本麻酔科学会 麻酔科指導医および麻酔科専門医	

担当分野	氏名	所属	臨床経験年数	資格	備考
産婦人科	西田純一	大分中村病院	31年	産婦人科専門医、日本婦人腫瘍学会婦人科腫瘍専	
整形外科	田北親寛	大分中村病院	23年	日本整形外科学会専門医、日本整形外科学会脊椎脊髄病医、日本脊椎脊髄病学会脊椎脊髄外科指導医	臨床研修管理委員会副委員長
整形外科	園田広典	大分中村病院	23年	日本整形外科学会専門医 日本手外科学会専門医	プログラム責任者
内科 消化器科	石飛裕和	大分中村病院	23年		
内科 循環器科	麻生崇則	大分中村病院	22年	日本循環器学会専門医 日本内科学会認定医	
整形外科	立山正道	大分中村病院	20年	日本整形外科学会整形外科専門医 日本整形外科学会認定脊椎脊髄病医	
外科	麓祥一	大分中村病院	19年	日本外科学会外科専門医、日本消化器内視鏡学会専門医、日本消化器病学会専門医、日本消化管学会胃腸科専門医・指導医、消化器がん外科治療認定医、日本食道学会食道科認定医、日本がん治療認定医機構がん治療認定医・暫定教育医	
形成外科	芳原聖司	大分中村病院	15年	日本形成外科学会専門医	
内科 循環器科	鳥越久美栄	大分中村病院	16年	日本循環器学会専門医、総合内科専門医	
外科	錦耕平	大分中村病院	14年	日本外科学会外科専門医、日本消化器病学会専門医、日本食道学会食道科認定医、日本がん治療認定医機構がん治療認定医	

(順不同)

## 研修医の募集・処遇等

1. 研修医の処遇		
処遇の適用	病院独自の処遇とする	
常勤・非常勤の別	常勤	
研修手当	1年次の支給額(税込) 基本手当/月(500,000円)	2年次の支給額(税込) 基本手当/月(550,000円)
	時間外手当	有
勤務時間	休日手当	有
	基本的な勤務時間	8:30~17:30(24時間表記)
休暇	時間外勤務の有無	有
	有給休暇	1年次:10日(入社半年後より) 2年次:11日
	夏季休暇	有
	年末年始	有
	その他の休暇	慶弔休暇
当直	(回数)約4回/月	
研修医の宿舎	有(単身用・世帯用)	
研修医の病院内の個室	有	
社会保険・労働保険	公的医療保険	健康保険
	公的年金保険	厚生年金

	労働者災害補償 保険法の適用	有
健康管理	健康診断（年2回）	
医師賠償責任保険の扱い	・病院において加入する ・個人加入（任意）	
外部の研修活動	学会、研究会等への参加	可
	学会、研究会等への参加費用支給の有無	有
2. 研修医の募集定員	1年次：5名、2年次：5名	
3. 研修医の募集及び採用の方法		
研修プログラムに関する 問い合わせ先	氏名：佐藤 秀美（総合臨床研究センター運営室・卒後研修） 電話：097-536-5050(代) FAX：097-537-5261 e-mail：clinicaljim@nakamura-hosp.or.jp URL：http://www.nakamura-hosp.or.jp	
資料請求先	〒870-0022 大分県大分市大手町3丁目2番43号 氏名：佐藤 秀美（総合臨床研究センター運営室・卒後研修） 電話：097-536-5050(代) FAX：097-537-5261 e-mail：clinicaljim@nakamura-hosp.or.jp URL：http://www.nakamura-hosp.or.jp	
募集方法	公募	
応募必要書類	履歴書、卒業（見込み）証明書、採用願書、健康診断証明書（当院のHPからダウンロードして使用）	
選考方法	面接、書類審査	
募集及び選考の時期	募集時期	6月1日頃から
	選考時期	8月1日頃から（随時）
マッチング利用の有無	有	
研修医手帳	有	

## 基本研修科目の概要

### 内 科

#### 研修の基本と特徴

内科医師の構成：内科指導医6名（うち総合内科専門医4名、認定内科医2名）、大分大学医学部附属病院からの常勤医師2名、非常勤医師5名。

内科全般の疾病にたいして、指導医のもとで研修を行い、疾患を総合的に診療し、必要とされる基本的な診察法、診断と治療に必要な検査手技、治療法の基本などを修得する。疾病の頻度が多いCommon Diseasesからより重篤な疾患、さらに高齢者の医療、認知症ケアや生活習慣病の予防、終末期医療など、基本的に経験しておくべき基礎疾患、合併症を経験し、その基本を習得する。

さらに、日本専門医機構の基本方針に従った日本内科学会の「内科専門医制度、研修カリキュラム」に沿った研修内容にしたがい、総合内科（一般、高齢者、腫瘍）の研修およびサブスペシャリティ重点研修に視点をのこした研修を行い、初期研修から引き続いてさらに進んだ専門的技能と知識を深め、内科領域の総合的な研修を修得する。

#### 研修方法

- 1) 「臨床研修の到達目標」を達成することを目標として研修する。



- 2) 原則として、2 か月単位で以下の診療科グループを選択して研修を行う。  
循環器内科 / 消化器内科 / 糖尿病内科  
\*いずれの診療科グループを選択しても、内科全般の疾患を経験することは可能である。
- 3) 選択研修では、大分大学医学部附属病院での「たすきがけ研修」をすることが出来る(1~3 か月間)。

## 外 科

### 研修の基本と特徴

臨床医として必要な外科領域における知識および技能を実地に研修し、外科医療における患者と医師との間の人間関係について理解を深める。医師は、将来どの分野の医療を専攻するにせよ、外科全般にわたる基本的な臨床知識を持っておく必要がある。特に、正確でかつ迅速な対応を必要とする全身呼吸循環管理、手術前後の患者管理を経験し、医療行為の基礎を修得するなど、基本的な外科知識、技術、態度を身に付ける研修を行う。

### 研修方法

- 1) 「臨床研修の到達目標」を達成することを目的として研修する。
- 2) 外科を中心に、整形外科、脳神経外科、形成外科、泌尿器科および麻酔科の各科のうち、1 科以上を選択し6ヶ月間研修する。
- 3) 入院患者の担当医の一員として診療に従事し、患者の病態、診断、検査、手術、術後管理、治療を経験し、カルテに記載する。
- 4) 皮膚切開、縫合、結紮などの技術、輸液療法、採血法、血管確保などの基本的技能を修得する。
- 5) 清潔、不潔の概念、手洗い法、消毒法、周術期感染、術後感染などの基礎的概念を実践する。
- 6) 外科的救急患者の対応、処置を経験する。
- 7) 術後癌患者の終末期医療・緩和医療を経験する。
- 8) 選択研修では、大分大学医学部附属病院での「たすきがけ研修」をすることが出来る(1~3 か月間)。

## 救急医療

### 研修の基本と特徴

救急研修は、心肺機能停止患者、緊急治療を要する患者などの初期治療、重症度と緊急度の評価などができるような基本的な対応、処置、治療等の知識と技術とを修得する。バイタルサインの把握、ショックの診断と治療、一次・二次救命処置(ACLS: Advanced Cardiovascular Life Support)を修得することを目標に、内科、外科研修を問わず、本院での研修期間は指導医のもとで救命救急室(ER: Emergency Room)での初期対応を経験する。

### 研修方法

- 1) 「臨床研修の到達目標」を達成することを目的として研修する。
- 2) 研修医は、所属診療科の指導医のもとに救急医療初期研修に参加する。
- 3) 救急部の研修は救命救急室(ER)で行う。当院への救急搬送患者は月間170名程度であり、プライマリーケアに必要な救急対応の基本的知識と技術を身につける。
- 4) 当院のERに搬送された患者に対して、各所属診療科の研修と平行して救急研修に携わる。救急部の研修期間(3ヶ月)は、最初、ER外来の研修から開始し、1年目に1~2/週の日程で集中的にERでの研修に専念する。
- 5) 搬送患者の初期の病態の把握、緊急度の評価、気道確保、人工呼吸、心マッサージ、ショックの治療等ができるような一次救命処置(BLS: Basic Life Support)を修得し、二次救命処置

( ACLS ) に対する初期治療も出来るようにする。

6 ) 救急患者に対しては、各診療科の医師は、横断的に協力して対応する。

#### 一般目標

緊急を要する病態や疾患、内科救急及び外傷等に対する適切な診断・初期治療能力を身につける。  
心肺停止、ショック、意識障害、急性循環不全・呼吸不全、急性腹症、急性腎不全、脳血管障害、多発外傷、熱傷、急性中毒などの疾病、病態を経験する。

#### 経験目標

【 1 年目 】 救急診療の基本的事項を理解する。

必要な検査を指示し、異常所見を指摘できる。

病態の把握 ( 身体所見、バイタルサイン、重症度と緊急度 )

2 次救命処置 ( ACLS: Advanced Cardiovascular Life Support )

専門医への適切なコンサルテーション

【 2 年目 】 救急診療に必要な手技を身につける。

気道確保、気管内挿管、人工呼吸、心マッサージ、除細動、静脈路確保・中心静脈路

確保、緊急薬剤の使用、採血 ( 静脈、動脈 )、経鼻胃管の挿入、圧迫止血、局所麻酔、

創処理・創処置 ( 消毒・縫合 )、緊急輸血

## 小児科

#### 研修の基本と特徴

小児における正常発達、発育、一般的疾患を理解し、小児科医療、家庭医として必要な初期の知識と技術を習得する。患児の両親との良好なコミュニケーションをとることができるのを基本とする。

#### 研修方法

1 ) 「臨床研修の到達目標」を達成することを目的として研修する。

2 ) 研修は、協力型臨床研修病院「大分こども病院」にて 1 ヶ月間行う。

3 ) 指導医のもとに、病歴を取り、各年齢に応じた診察を行い、発熱、けいれん、嘔吐、下痢、不活発、せき、発疹などの症状から鑑別診断と治療を修得する。

4 ) 乳幼児、学童、思春期の子供、および保護者との適切なコミュニケーションと対応を修得する。

5 ) 指導医のもとに、注射、採血、処方、処置を経験する。

## 産婦人科

#### 研修の基本と特徴

正常な妊娠、分娩、産褥の臨床知識とともに、異常妊娠、異常分娩の基本的な知識を修得する。一連の女性生殖器疾患を理解し、それらの診断と治療を学び、医師として必要な基本的な姿勢を修得する。

#### 研修方法

1 ) 「臨床研修の到達目標」を達成することを目的として研修する。

2 ) 研修は、臨床研修協力施設「みぞぐち産婦人科医院」あるいは「岩永レディースクリニック」または「大分大学医学部産科婦人科」にて 1 ヶ月間行う。

3 ) 指導医のもと、外来および病棟での日常の医療に参加し、正常妊娠の診断、妊娠・分娩の進行の把握、分娩の立会い、産褥の管理、異常分娩の診断、緊急的処置、薬物療法、婦人科疾

患の診断治療などを学ぶ。

## 精神科

### 研修の基本と特徴

精神科における診療の基本を学び、代表的な疾患の理解と、身体疾患に伴う心のケア、精神症状に対する対処方法などを修得する。

### 研修方法

- 1) 「臨床研修の到達目標」を達成することを目的として研修する。
- 2) 研修は、協力型臨床研修病院である「帆秋病院」にて1ヶ月間行う。
- 3) 指導医のもとに、外来、病棟での症状精神病、統合失調症、躁うつ病（気分障害）、アルコール依存症などを診察し、診断、治療法を修得する。

## 地域医療

### 研修の基本と特徴

患者が営む日常生活や居住する地域の特性に即した医療（在宅医療を含む）について理解し、実践する。

### 研修方法

- 1) 「臨床研修の到達目標」を達成することを目的として研修する。
- 2) 明野中央病院、佐賀関病院、ハートクリニック、竹田医師会病院において、患者が営む日常生活や居住する地域の特性に即した医療について理解し、実践する。また医療連携についても理解を深める。

## 地域保健

### 研修の基本と特徴

多くの医療に携わる専門職によって担われている地域保健・福祉の活動に対して、医師として全人的に自ら実践することにより、その役割を理解するのが基本である。健康管理、疾病予防、リハビリテーションなど、予防医療から福祉サービスまでの一連の業務を理解する。

### 研修方法

- 1) 「臨床研修の到達目標」を達成することを目的として研修する。
- 2) 東部保健所、北部保健所、南部保健所において、保健所の業務に参加し、役割を理解する。
- 3) 社会福祉法人太陽の家『身体障がい者支援施設 ゆうわ』において、身体障がい者の社会復帰、社会福祉施設の役割を理解し実践する。
- 4) 『介護老人保健施設 健寿荘』において、自らが介護医療を実践し理解する。

## 内科

### 研修と概要

内科全般の診療に必要とされる医療面接、身体診察法、臨床検査の結果の解釈、超音波検査、内視鏡検査、等々の基本的な診断技術、推測される疾病の診断およびその治療法を修得する。頻度が多い Common Diseases からより重篤な疾患、さらに高齢者の医療、生活習慣病の予防、認知症のケア等々、基本的に経験しておくべき基礎疾患、合併症を経験し、その基本を習得する。

さらに、日本内科学会の「内科専門医制度、研修カリキュラム」に沿った研修内容にしたがい、総合内科(一般、高齢者、腫瘍)の研修およびサブスペシャリティ重点研修に視点を置いて研修を行う。初期研修から引き続いてより踏み込んだ専門的スキルと知識を深め、内科領域の総合的な研修を修得することができる。

### 一般目標と経験目標

#### 基本的事項

- 1) 問診、胸部の打診、聴診などの身体所見を取る。
- 2) 胸部単純 X 線写真の読影をする。
- 3) 胸部 CT 所見の読影をする。
- 4) 一人でバッグ呼吸を行い、気管内挿管を経験する。

#### 疾病・検査・治療

- 1) 検体のグラム染色等の塗抹鏡検を行い、感染性疾患の判断をする。
- 2) 抗菌薬の使い分けを行う。
- 3) 喀痰検体の採り方を経験する。
- 4) 発熱症例の鑑別診断をする。
- 5) 癌患者および家族に病状を説明し、同意を得る。
- 6) 内科医の範囲で癌の疼痛コントロールを経験する。
- 8) スパイログラムの結果や血液ガス検査の結果を解釈し、緊急の対応をする。
- 9) 急性呼吸不全患者の人工呼吸を経験する。
- 10) 在宅酸素療法の適応の判断をする。
- 11) 体位ドレナージを実施する。

### 週間スケジュール (スケジュール変更はある)

内科	月	火	水	木	金	土
午前	外来	外来	外来	総回診	外来	外来
午後	外来・病棟	病棟	外来・病棟	外来・病棟	病棟	

## 循環器内科

### 研修指導医と概要

指導医 5 名、大分大学医学部附属病院から 1 名の非常勤医師(指導医)で対応している。急性心筋梗塞、心不全、心筋症、不整脈、心臓弁膜症、睡眠時無呼吸症候群、高血圧症、閉塞性動脈硬化症などの診断、検査、治療を行っている。PTCA/ステント留置などの内科的救急処置は平均 10 例/月、心臓カテーテル検査は平均 20 例/月である。指導医のもとで救急搬送患者の検査、診断、治療が経験できる。

#### 一般目標と経験目標

- 1) 患者の病歴および理学所見をとる。
- 2) 頻脈、息切れ、胸痛などの病態生理を理解し、対応する。
- 3) 心電図を正しく記録し、その結果を解釈する。
- 4) 心エコー図の適応とその結果を解釈する。
- 5) 心臓カテーテル検査、心臓電気生理学的検査、心臓核医学検査、トレッドミル運動負荷心電図、Holter心電図の検査に立ちあい結果を正しく理解する。
- 6) 心不全、失神発作、胸痛発作、ショックなどの救急を要する病態への初期対応をする。
- 7) 救急時に必要な処置（直流除細動、スワンガンツカテーテル挿入、心膜穿刺、IABP）に立ちあい理解する。
- 8) 降圧薬、強心薬、昇圧薬、硝酸薬、抗不整脈薬、抗凝固薬、抗血小板薬などの循環器治療薬を正しく理解し、使用する。

#### 週間スケジュール（スケジュール変更はある）

循環器内科	月	火	水	木	金	土
午前	外来 / 回診	外来 / 心筋シンチ	回診	総回診	外来 / 心筋シンチ	外来 / 心Echo/検査
午後	外来	心カテ	心カテ・心臓CT・カンファレンス	外来	心ECHO・検査	

## 消化器内科

#### 研修指導医と概要

指導医 1 名、上級医 1 名で対応している。内科の中でも頻度が多い消化器系疾患について、画像診断、内視鏡による診断・治療・処置などを行っている。急性腹症の救急対応なども指導医とともに行う。

#### 一般目標と経験目標

- 1) 消化器疾患に対する薬物療法と栄養管理を実施する。
- 2) 消化器出血、急性腹症等の救急患者に対する初期対応を経験する。
- 3) 消化器疾患の X 線像、CT および内視鏡写真、エコー、血管造影所見から異常所見を指摘し診断する。
- 4) 消化管内視鏡の実施と観察を指導医のもとで行い、所見診断をする。
- 5) 消化器末期癌患者のケアをする。

## 腎臓内科

#### 研修指導医と概要

指導医 1 名、大分大学医学部附属病院からの非常勤医師 1 名(指導医)で対応している。慢性腎炎、ネフローゼ症候群、腎不全の治療、糖尿病性腎症、ループス腎炎などの続発性腎疾患などの診断、検査、治療、および血液浄化法（血液透析、血漿交換、血液ろ過、腹膜透析、急性血液浄化など）を行っている。

#### 一般目標と経験目標

- 1) 蛋白尿、血尿、浮腫、高血圧、腎機能異常などの病態を正確に把握し、検査計画を立てる。
- 2) 検尿（特に尿沈渣所見）、腎機能検査、特に血清クレアチニンの評価（eGFR）、腎の画像診断を正しく評価する。



- 3) 慢性腎臓病の定義、疫学について説明でき、患者の拾い上げと専門医への適切な紹介ができる。
- 4) 腎生検の意義と適応を理解し、実施する患者の検査前後の管理をする。
- 5) 腎炎・ネフローゼ症候群の患者の治療(特に利尿薬、降圧薬、ステロイド薬、免疫抑制薬の使用)を経験する。
- 6) 糖尿病性腎症、膠原病による腎障害などの二次性の腎疾患に対して、全身管理を経験する
- 7) 腎不全の状態(特に体液・電解質異常)を正しく理解し、対策を講ずる。
- 8) 腎不全患者の血液透析、CAPDを理解し、実践し、患者教育を行う。

週間スケジュール(スケジュール変更はある)

腎臓内科	月	火	水	木	金	土
午前	外来/HD 患者回診	HD患者回診	外来	総回診	外来/HD 患者回診	外来/HD 患者回診
午後	病棟	手術	HD患者回診	HD患者回診	病棟	

## 糖尿病内科

### 研修指導医と概要

指導医1名で対応している。生活習慣病といわれる高血圧、高脂血症の治療、糖尿病患者の全身的な評価、管理を行っている。

### 一般目標と経験目標

- 1) 甲状腺疾患(甲状腺機能亢進症、甲状腺機能低下症)
- 2) 糖代謝異常(糖尿病、糖尿病の合併症、低血糖)
- 3) 高脂血症

週間スケジュール(スケジュール変更はある)

糖尿病内科	月	火	水	木	金	土
午前	外来	外来	外来	病棟	外来	外来
午後	外来	病棟	病棟	病棟	病棟	

## 外科

### 研修指導医と概要

常勤医師(外科・消化器外科・消化器がん診療科)2名、非常勤医師(指導医)1名、の3名体制でがんや炎症性患者、外傷などの様々な消化器疾患に対する外科治療、抗がん剤治療、緩和医療を中心とした診療をしている。

### 手術内容

- 1) 胃切除・全摘術(腹腔鏡手術を含む)
  - 2) 肝・胆・膵疾患(腹腔鏡手術を含む)
  - 小腸・大腸疾患(腹腔鏡手術を含む)
- 鼠径・大腿・閉鎖孔・腹壁癒痕ヘルニア根治術  
血管外科手術  
乳腺疾患

### 一般目標

ACLS、救急処置、術前・術後患者の管理

### 経験目標

超音波診断、一般画像診断、外科小手術（消化器全般・呼吸器・血管乳腺疾患等）

### 週間スケジュール（スケジュール変更はある）

外科	月	火	水	木	金	土
午前	外来・回診	外来・回診	外来・回診	外来（血管外科もあり）・回診	外来・回診	外来・回診
午後	手術	回診	回診	外来（血管外科）・手術	回診	

## 整形外科

### 研修指導医と概要

当科は大分大学より医師が派遣されており、院長をはじめとする5名の指導医・上級医、大分大学医学部附属病院からの非常勤医師4名で構成されている。入院患者数は約80人/日、外来患者数は約100人/日、年間手術数は約700例を数える。救急病院という特徴上、骨折脱臼といった患者が多く、手術数の約6割を占める。関節・脊椎の慢性疾患や、スポーツ外傷にも重点を置いている。

### 一般目標

各種整形外科疾患患者を受け持ち、疾患の理解、整形外科的基本知識や手技、および医師としての基本的姿勢を習得する

### 経験目標

- 【1年目】骨、関節、筋、神経などの基礎的知識、各種疾患の基礎知識の習得。  
整形外科的診察、および局麻、関注、ブロックなどの基本的手技の習得。  
X線、MRIなどの読影。
- 【2年目】簡単な外傷の処置、縫合。  
診断から治療計画の立案。  
ギプス、直達牽引、腰椎麻酔などの手技の習得。  
手術の助手として参加、術前術後の管理を実行。

### 週間スケジュール（スケジュール変更はある）

整形外科	月	火	水	木	金	土
午前	外来	病棟	外来・リハビリ回診	外来	総回診	外来・病棟
午後	手術・病棟	手術・病棟	手術・リハビリカンファレンス	手術・病棟	手術・カンファレンス	

## 脳神経外科

### 研修指導医と概要

脳神経外科学会専門医2名、当科は徳島大学脳神経外科より医師が派遣されており、経験年数はそれぞれ約39年、27年である。入院患者平均は約40/日で、年間手術件数は120例前後である。救急

病院の生活上脳血管障害、頭部外傷患者が比較的多い。約 10 例の脳血管内手術（脳動脈瘤塞栓術、内頸動脈ステント留置術等）施行し、脳血管内手術指導医（徳島大学脳神経外科）に依頼している。

#### 一般目標

臨床医師として必要な脳疾患の理解を深める為に、基本的な脳神経外科的知識、手技、医師としての態度を習得し、日常よく遭遇する脳神経外科疾患の診断・治療を経験する。

#### 経験目標

【1年目】神経学的所見を正確に取り、診察できる。

主な脳神経外科疾患の CT、MR、脳血管写の所見を読み、診断できる。

【2年目】神経学的所見を正確に取り、診察できる。

主な脳神経外科疾患の X-P、CT、MR、脳血管写、脳波等の所見を読み、診断できる。

頻度の高い救急脳疾患の診断、外来処置ができ、治療方針をたてることができる。

脳血管撮影、腰椎穿刺、気管切開、脳外科救急患者の外来処置等の適応、合併症を理解し、介助ができる。

開頭・閉頭術、局所麻酔下での手術（脳室ドレナージ、慢性硬膜下血腫等）の介助ができる。

#### 週間スケジュール（スケジュール変更はある）

定期の手術は水曜日の午前から行うが、当科の性格上、救急患者が半数以上を占めているので、2人の医師で24時間臨機応変に対応している。

脳神経外科	月	火	水	木	金	土
午前	外来・回診	外来・回診	外来・回診	外来・回診	外来・回診	外来・回診
午後	外来・脳血管写、手術等	外来・脳血管写、手術等	外来・脳血管写、手術等	外来・脳血管写、手術等	外来・脳血管写、手術等	

## 形成外科

#### 研修指導医と概要

当科は、長崎大学形成外科より医師が派遣されており、2名体制で診療を行っている。部長は日本形成外科学会・日本熱傷学会および手の外科学会の専門医でもある。救急病院であるため外傷が多く、特に再接着術を含めた手の外科手術が多い。また、顔面外傷、熱傷、難治性潰瘍や褥瘡の治療も多く行っている。特殊な先天奇形、顔面骨骨切り、血管柄付き遊離移植術等は長崎大学や関連施設に応援を依頼することもある。

#### 一般目標

基本的な形成外科的知識、手技、医師としての態度を習得する。日常よく遭遇する形成外科疾患、外傷の診断、治療を経験し、治療の流れを把握する。

#### 経験目標

【1年目】形成外科的診療法・記載法

手術前・後の管理

創処理

簡単なスプリント及びギブス固定法

形成外科的外傷の救急処置・診断

形成外科諸手術の助手

形成外科的縫合法（外傷や全層植皮の患皮部等を利用して）

小範囲の分層植皮の採取法を修練する。

## 【2年目】顔面以外の部位の植皮術

小範囲の癬痕拘縮形成術

簡単な皮弁作成

簡単な顔面の手術あるいは手の外科手術などの手術において部分的な執刀者となる。

週間スケジュール（スケジュール変更はある）

形成外科	月	火	水	木	金	土
午前	外来・回診	外来・回診	外来・回診	外来・回診	外来	外来・回診
午後	手術等	手術等	手術等	総回診 手外科回診 褥瘡回診	手術等	

## 泌尿器科

### 研修指導医と概要

泌尿器科指導医・専門医1名。当科は大分大学泌尿器科学講座と関連し、指導医の経験年数は35年である。年間約2,000例の受け入れがある二次救命救急室を持つ当院では、急性腹症や労務災害・交通事故・高所転落による肋骨骨盤骨折を伴った腎尿路損傷の患者さんが多い。高齢者の排尿管理、女性尿失禁、勃起不全（ED）の各外来があり、今後の超高齢化時代に対応している。頻尿と認知症鑑別判断の関連を追及している。

### 一般目標

目の前の患者さんの問題点を把握し、その解決法をただちに見出せる診療能力を蓄え、医療チームの一翼を担えるよう習練経験する。

### 経験目標

【1年目】頻度の多い一般泌尿器患者への適切な処置ができる

- 1) 腎尿路、骨盤内臓器の解剖・生理の理解
- 2) 愛護的な患者対応と病歴の正確な聴取
- 3) 腹部外陰部身体所見・直腸診の実施と評価
- 4) 尿排出・蓄尿障害（尿失禁）の鑑別・骨盤底筋体操指導
- 5) 検尿（定性・沈査）の実施とその評価
- 6) 膀胱炎・腎盂腎炎の初期診断と治療
- 7) 尿閉の診断と導尿カテーテルの使用・膀胱洗浄
- 8) 腎盂造影、腹部超音波断層の実施、CT像の読影
- 9) 急性腹症・尿管結石の診断・救急処置
- 10) 交通事故・高所転落から腎尿路外傷を診断
- 11) 食事を含んだ生活指導

【2年目】より専門的泌尿器疾患への診断介助ができる

- 1) 水・電解質、酸塩基平衡・勃起機能の理解
- 2) 内視鏡（尿道膀胱鏡）の実施
- 3) 尿力学的検査（尿流速・尿流率・残尿測定）、四肢腱反射
- 4) 腰椎・仙骨硬膜外麻酔の実施管理
- 5) 膀胱・前立腺生検
- 6) 膀胱尿道造影、逆行性腎盂造影、レノグラム、骨シンチグラフィ
- 7) 周術期のカンファレンスと管理
- 8) 経尿道的前立腺・膀胱腫瘍切除手術・尿管ステント留置術の助手
- 9) 透視・超音波下手術（経皮的腎瘻・膀胱瘻）の介助
- 10) 簡単な泌尿器科手術の執刀

週間スケジュール（スケジュール変更はある）

定期手術は火曜日と木曜日の午後を予定しているが、緊急時はこの限りではなく、夜間のコール呼び出しもある。

泌尿器科	月	火	水	木	金	土
午 前	外来・回診	外来・回診		外来・回診	外来・回診	外来・回診
午 後	勃起不全外来	手術・検査	病棟	病棟	病棟	

## I 麻酔科

### 研修指導医と概要

研修指導医：工藤治彦（麻酔科部長・日本麻酔科学会認定麻酔科専門医）

永澤一郎（麻酔科部長・日本麻酔科学会認定麻酔科専門医）

### 研修概要

選択必修である麻酔科研修は、研修2年目に2か月間（出来れば連続で）行う。手術麻酔の症例経験を通して、重症患者の状態把握および初期対応のための基本的知識・手技を確実に身につける。あわせて臨床麻酔の理論と実際を理解する。

### 一般目標

将来の専攻分野にかかわらず、患者の危機的病態への適切な初期対応ができる臨床医になるために、周術期管理を通して基本的な知識、技能、態度を身につける。

### 経験目標

#### 患者 医師関係

- ・手術で麻酔を受ける患者・家族抱く不安を認識できる。
- ・守秘義務を果し、プライバシーへの配慮ができる。

#### チーム医療

- ・周術期管理チームの一員として、他の医療従事者との良好なコミュニケーションができる。
- ・指導医に適切に報告・相談ができる。

#### 問題対応能力

- ・周術期患者の状態を情報情報収集し、整理して、麻酔管理上の問題点を列挙できる。

#### 安全管理

- ・手術室における安全確認の考え方（感染防御を含む）を理解し、実施できる。

#### 症例提示

- ・麻酔前回診で収集した情報を整理したうえで、麻酔管理上の問題点とともに指導医に適切に報告できる。

#### 医療面接

- ・麻酔前回診を通して、患者の人となりや社会背景も含めた、麻酔管理に必要な情報収集と記録ができる。
- ・患者・家族から信頼を得られるような接遇を身につける。
- ・麻酔に関するインフォームド・コンセントおよび術前指示・指導を実施できる。

#### 基本的身体診察法と病態の把握

- ・バイタルサインの正確な把握ができる
- ・麻酔管理に必要な基本的理学所見をとれる。（気道閉塞に伴う胸郭の動き、頸椎の可動性、開口障害の有無の把握と挿管困難予想、片肺・食道挿管の検知を含む）
- ・上記をもとに、周術期患者の病態の把握ができる。（循環血液量、気道と換気など）

#### 基本的手技

- ・静脈血・動脈血の採血を実施できる。
- ・導尿法を実施できる。
- ・胃管の挿入を実施できる。



- ・気道確保を実施できる。(経鼻・経口エアウェイも適切に使用できる)
- ・マスクバックを用いた人工呼吸を実施できる。
- ・気管挿管を実施できる。

#### 基本的治療法

- ・術前、術中、術後の状態を考慮した輸液を実施できる。
- ・輸血(成分輸血を含む)の効果と副作用について理解し、輸血を実施できる。
- ・局所麻酔薬の種類と濃度別の使い方を述べるができる。
- ・術中に使用する鎮静薬の種類と使い方を述べるができる。
- ・術中および術後に使用する鎮痛薬(麻薬・NSAIDSを含む)の種類と使い方を述べるができる。
- ・アナフィラキシー/アナフィラキシー様反応発生の覚知、および治療法を述べるができる。

#### 医療記録

- ・診療録および麻酔記録を遅滞なく、正確に記載することができる。

#### 診療計画

- ・麻酔前回診で収集した整理した情報と麻酔管理上の問題点を考慮した麻酔・全身管理計画を指導医と協議できる。
- ・患者と施行術式に適した術後鎮痛計画を指導医と協議できる。

#### LS(修得の方法)

##### 非実地修練(off the job training)

知識の習得：麻酔科テキスト(ex.麻酔科研修チェックノート(讃岐美智義著)、過去の麻酔記録等による自己学習。

指導医による“口移し的”講義と討論。

手技の習得：気道管理トレーナー。

##### 実地修練(on the job training)

指導医指導の下、当院手術室で行われる麻酔科管理症例の周術期管理を担当する。

- ・麻酔前回診を通して、病歴・検査データ等の情報収集、患者・家族面接、診察、麻酔説明、術前指示、指導等を行う。
- ・手術麻酔管理を通して、麻酔科研修における基本的診察法、病態の把握、基本的手技、基本的治療法を経験し、修得する。

#### 教育関連スケジュール

麻酔科	月	火	水	木	金	土
午前 8:30~ 12:30	術前・術後回診 手術麻酔	術前・術後回診 手術麻酔	術前・術後回診 手術麻酔	術前・術後回診 手術麻酔	術前・術後回診 手術麻酔	
午後 12:30~ 17:30	術前・術後回診 手術麻酔	術前・術後回診 手術麻酔	術前・術後回診 手術麻酔	術前・術後回診 手術麻酔	術前・術後回診 手術麻酔	

# 臨床研修の到達目標 達成計画

確実に達成できる・・・ 概ね達成できる見込み・・・ (研修分野ごとに判断)

目 標		内 科	外 科	救 急 部 門	小 児 科	産 婦 人 科	精 神 科	地 域 医 療	地 域 保 健
行動目標 医療人として必要な基本姿勢・態度									
(1) 患者・医師関係 患者を全人的に理解し、患者・家族と良好な人間関係を確立するために、									
1)	患者、家族のニーズを身体・心理・社会的側面から把握できる。								
2)	医師、患者・家族がともに納得できる医療を行うためのインフォームド・コンセントが実施できる。								
3)	守秘義務を果たし、プライバシーへの配慮ができる。								
(2) チーム医療 医療チームの構成員としての役割を理解し、保健・医療・福祉の幅広い職種からなる他のメンバーと協調するために、									
1)	指導医や専門医に適切なタイミングでコンサルテーションができる。								
2)	上級医及び同僚医師や他の医療従事者と適切なコミュニケーションがとれる。								
3)	同僚及び後輩へ教育的配慮ができる。								
4)	患者の転入・転出にあたり、情報を交換できる。								
5)	関係機関や諸団体の担当者とコミュニケーションがとれる。								
(3) 問題対応能力 患者の問題を把握し、問題対応型の思考を行い、生涯にわたる自己学習の習慣を身に付けるために、									
1)	臨床上の疑問点を解決するための情報を収集して評価し、当該患者への適応を判断できる (EBM=Evidence Based Medicine の実践ができる。 )。								
2)	自己評価及び第三者による評価を踏まえた問題対応能力の改善ができる。								
3)	臨床研究や治験の意義を理解し、研究や学会活動に関心を持つ。								
4)	自己管理能力を身に付け、生涯にわたり基本的診療能力の向上に努める。								
(4) 安全管理 患者及び医療従事者にとって安全な医療を遂行し、安全管理の方策を身に付け、危機管理に参画するために、									
1)	医療を行う際の安全確認の考え方を理解し、実施できる。								
2)	医療事故防止及び事故後の対処について、マニュアルなどに沿って行動できる。								
3)	院内感染対策 (Standard Precautions を含む。 ) を理解し、実施できる。								
(5) 症例呈示 チーム医療の実践と自己の臨床能力向上に不可欠な、症例呈示と意見交換を行うために、									
1)	症例呈示と討論ができる。								
2)	臨床症例に関するカンファレンスや学術集會に参加する。								
(6) 医療の社会性 医療の持つ社会的側面の重要性を理解し、社会に貢献するために、									
1)	保健医療法規・制度を理解し、適切に行動できる。								
2)	医療保険、公費負担医療を理解し、適切に診療できる。								
3)	医の倫理、生命倫理について理解し、適切に行動できる。								
4)	医薬品や医療用具による健康被害の発生防止について理解し、適切に行動できる。								

目 標		内 科	外 科	救 急 部 門	小 児 科	産 婦 人 科	精 神 科	地 域 医 療	地 域 保 健
経験目標									
A 経験すべき診察法・検査・手技									
(1) 医療面接 患者・家族との信頼関係を構築し、診断・治療に必要な情報が得られるような医療面接を実施するために、									
1)	医療面接におけるコミュニケーションの持つ意義を理解し、コミュニケーションスキルを身に付け、患者の解釈モデル、受診動機、受療行動を把握できる。								
2)	患者の病歴（主訴、現病歴、既往歴、家族歴、生活・職業歴、系統的レビュー）の聴取と記録ができる。								
3)	患者・家族への適切な指示、指導ができる。								
(2) 基本的な身体診察法 病態の正確な把握ができるよう、全身にわたる身体診察を系統的に実施し、記載するために、									
1)	全身の観察（バイタルサインと精神状態の把握、皮膚や表在リンパ節の診察を含む。）ができ、記載できる。								
2)	頭頸部の診察（眼瞼・結膜、眼底、外耳道、鼻腔口腔、咽頭の観察、甲状腺の触診を含む。）ができ、記載できる。								
3)	胸部の診察（乳房の診察を含む。）ができ、記載できる。								
4)	腹部の診察（直腸診を含む。）ができ、記載できる。								
5)	泌尿・生殖器の診察（産婦人科的診察を含む）ができ、記載できる。								
6)	骨・関節・筋肉系の診察ができ、記載できる。								
7)	神経学的診察ができ、記載できる。								
8)	小児の診察（生理的所見と病的所見の鑑別を含む。）ができ、記載できる。								
9)	精神面の診察ができ、記載できる。								
(3) 基本的な臨床検査 病態と臨床経過を把握し、医療面接と身体診察から得られた情報をもとに必要な検査を、 A・・・自ら実施し、結果を解釈できる。 その他・・・検査の適応が判断でき、結果の解釈ができる。 必修項目 <b>赤字の検査</b> について経験があること *「経験」とは受け持ち患者の検査として診療に活用すること Aの検査で自ら実施する部分については、受け持ち症例でなくてもよい									
	1)	<b>一般尿検査</b> （尿沈査顕微鏡検査を含む。）							
	2)	<b>便検査</b> （潜血、虫卵）							
	3)	<b>血算・白血球分画</b>							
A	4)	<b>血液型判定・交差適合試験</b>							
A	5)	<b>心電図（12誘導）、負荷心電図</b>							
A	6)	<b>動脈血ガス分析</b>							
	7)	<b>血液生化学的検査</b> ・簡易検査（血糖、電解質、尿素窒素など）							
	8)	<b>血液免疫血清学的検査</b> （免疫細胞検査、アレルギー検査を含む。）							
	9)	<b>細菌学的検査・薬剤感受性検査</b>							
		・検体の採取（痰、尿、血液など） ・簡単な細菌学的検査（グラム染色など）							

目 標		内 科	外 科	救 急 部 門	小 児 科	産 婦 人 科	精 神 科	地 域 医 療	地 域 保 健
	10)	肺機能検査 ・スパイロメトリー							
	11)	髄液検査							
	12)	細胞診・病理組織検査							
	13)	内視鏡検査							
A	14)	超音波検査							
	15)	単純X線検査							
	16)	造影X線検査							
	17)	X線CT検査							
	18)	MRI検査							
	19)	核医学検査							
	20)	神経生理学的検査（脳波・筋電図など）							
(4) 基本的手技 必修項目 赤字の手技を自ら行った経験があること 基本的手技の適応を決定し、実施するために、									
	1)	気道確保を実施できる。							
	2)	人工呼吸を実施できる。（マッグマスクによる徒手換気を含む。）							
	3)	心マッサージを実施できる。							
	4)	圧迫止血法を実施できる。							
	5)	包帯法を実施できる。							
	6)	注射法（皮下、皮下、筋肉、点滴、静脈確保、中心静脈確保）を実施できる。							
	7)	採血法（静脈血、動脈血）を実施できる。							
	8)	穿刺法（腰椎）を実施できる。							
	9)	穿刺法（胸腔、腹腔）を実施できる。							
	10)	導尿法を実施できる。							
	11)	ドレーン・チューブ類の管理ができる。							
	12)	胃管の挿入と管理ができる。							
	13)	局所麻酔法を実施できる。							
	14)	創部消毒とガーゼ交換を実施できる。							
	15)	簡単な切開・排膿を実施できる。							
	16)	皮膚縫合法を実施できる。							
	17)	軽度の外傷・熱傷の処置を実施できる。							
	18)	気管挿管を実施できる。							
	19)	除細動を実施できる。							
(5) 基本的治療法 基本的治療法の適応を決定し、適切に実施するために、									
	1)	療養指導（安静度、体位、食事、入浴、排泄、環境整備を含む。）ができる。							
	2)	薬物の作用、副作用、相互作用について理解し、薬物治療（抗菌薬、副腎皮質ステロイド薬、解熱薬、麻薬、血液製剤を含む。）ができる。							

目 標		内 科	外 科	救 急 部 門	小 児 科	産 婦 人 科	精 神 科	地 域 医 療	地 域 保 健
3)	基本的な輸液ができる。								
4)	輸血(成分輸血を含む。)による効果と副作用について理解し、輸血が実施できる。								
(6) 医療記録 必修項目 1) 診療録の作成 2) 処方箋・指示書の作成 3) 診断書の作成 4) 死亡診断書の作成 5) CPCレポート( )の作成、症例呈示 6) 紹介状、返信の作成 上記1)~6)を自ら行った経験があること( CPCレポートとは、剖検報告のこと) チーム医療や法規との関連で重要な医療記録を適切に作成し、管理するために、									
1)	診療録(退院時サマリーを含む。)をPOS(Problem Oriented System)に従って記載し管理できる。								
2)	処方箋、指示箋を作成し、管理できる。								
3)	診断書、死亡診断書、死体検案書その他の証明書を作成し、管理できる。								
4)	CPC(臨床病理検討会)レポートを作成し、症例呈示できる。								
5)	紹介状と、紹介状への返信を作成でき、それを管理できる。								
(7) 診療計画 保健・医療・福祉の各側面に配慮しつつ、診療計画を作成し、評価するために、									
1)	診療計画(診断、治療、患者・家族への説明を含む。)を作成できる。								
2)	診療ガイドラインやクリティカルパスを理解し活用できる。								
3)	入退院の適応を判断できる(デイサージャリー症例を含む。)								
4)	QOL(Quality of Life)を考慮にいれた総合的な管理計画(リハビリテーション、社会復帰、在宅医療、介護を含む。)へ参画する。								
B 経験すべき症状・病態・疾患 1 頻度の高い症状 必修項目 赤字の症状を経験し、レポートを提出する *「経験」とは、自ら診察し、鑑別診断を行うこと									
1)	全身倦怠感								
2)	不眠								
3)	食欲不振								
4)	体重減少、体重増加								
5)	浮腫								
6)	リンパ節腫脹								
7)	発疹								
8)	黄疸								
9)	発熱								
10)	頭痛								
11)	めまい								
12)	失神								
13)	けいれん発作								



目 標		内 科	外 科	救 急 部 門	小 児 科	産 婦 人 科	精 神 科	地 域 医 療	地 域 保 健
14)	視力障害、視野狭窄								
15)	結膜の充血								
16)	聴覚障害								
17)	鼻出血								
18)	嘔声								
19)	胸痛								
20)	動悸								
21)	呼吸困難								
22)	咳・痰								
23)	嘔気・嘔吐								
24)	胸やけ								
25)	嚥下困難								
26)	腹痛								
27)	便通異常（下痢、便秘）								
28)	腰痛								
29)	関節痛								
30)	歩行障害								
31)	四肢のしびれ								
32)	血尿								
33)	排尿障害（尿失禁・排尿困難）								
34)	尿量異常								
35)	不安・抑うつ								
2 緊急を要する症状・病態 必修項目 赤字の病態を経験すること *「経験」とは、初期治療に参加すること									
1)	心肺停止								
2)	ショック								
3)	意識障害								
4)	脳血管障害								
5)	急性呼吸不全								
6)	急性心不全								
7)	急性冠症候群								
8)	急性腹症								
9)	急性消化管出血								
10)	急性腎不全								
11)	流・早産及び満期産								
12)	急性感染症								
13)	外傷								
14)	急性中毒								
15)	誤飲、誤嚥								

目 標		内科	外科	救急部門	小児科	産婦人科	精神科	地域医療	地域保健
16)	熱傷								
17)	精神科領域の救急								
<b>3 経験が求められる疾患・病態</b> <b>必修項目</b> A疾患については入院患者を受け持ち、診断、検査、治療方針について症例レポートを提出すること B疾患については、外来患者又は受け持ち入院患者（合併症含む。）で自ら経験すること 外科症例（手術を含む。）を1例以上受け持ち、診断、検査、術後管理当について症例レポートを提出すること 全疾患（88項目）のうち70%以上を経験することが望ましい									
<b>(1) 血液・造血器・リンパ網内系疾患</b>									
B	(1)	貧血（鉄欠乏貧血、二次性貧血）							
	(2)	白血病							
	(3)	悪性リンパ腫							
	(4)	出血傾向・紫斑病（播種性血管内凝固症候群：DIC）							
<b>(2) 神経系疾患</b>									
A	(1)	脳・脊髄血管障害（脳梗塞、脳内出血、くも膜下出血）							
	(2)	認知症疾患							
	(3)	脳・脊髄外傷（頭部外傷、急性硬膜外・硬膜下血腫）							
	(4)	変性疾患（パーキンソン病）							
	(5)	脳炎・髄膜炎							
<b>(3) 皮膚系疾患</b>									
B	(1)	湿疹・皮膚炎群（接触皮膚炎、アトピー性皮膚炎）							
B	(2)	蕁麻疹							
	(3)	薬疹							
B	(4)	皮膚感染症							
<b>(4) 運動器（筋骨格）系疾患</b>									
B	(1)	骨折							
B	(2)	関節・靭帯の損傷及び障害							
B	(3)	骨粗鬆症							
B	(4)	脊柱障害（腰椎椎間板ヘルニア）							
<b>(5) 循環器系疾患</b>									
A	(1)	心不全							
B	(2)	狭心症、心筋梗塞							
	(3)	心筋症							
B	(4)	不整脈（主要な頻脈性、徐脈性不整脈）							
	(5)	弁膜症（僧帽弁膜症、大動脈弁膜症）							
B	(6)	動脈疾患（動脈硬化症、大動脈瘤）							
	(7)	静脈・リンパ管疾患（深部静脈血栓症、下肢静脈瘤、リンパ浮腫）							
A	(8)	高血圧症（本態性、二次性高血圧症）							

目 標			内 科	外 科	救急部門	小児科	産婦人科	精神科	地域医療	地域保健
( 6 ) 呼吸器疾患										
B	( 1 )	呼吸不全								
A	( 2 )	呼吸器感染症 ( 急性上気道炎、気管支炎、肺炎 )								
B	( 3 )	閉塞性・拘束性肺疾患 ( 気管支喘息、気管支拡張症 )								
	( 4 )	肺循環障害 ( 肺塞栓・肺梗塞 )								
	( 5 )	呼吸異常 ( 過換気症候群 )								
	( 6 )	胸膜・縦隔・横隔膜疾患 ( 自然気胸、胸膜炎 )								
	( 7 )	肺癌								
( 7 ) 消化器系疾患										
A	( 1 )	食道・胃・十二指腸疾患 ( 食道静脈瘤、胃癌、消化性潰瘍、胃・十二指腸炎 )								
B	( 2 )	小腸・大腸疾患 ( イレウス、急性虫垂炎、痔核・痔瘻 )								
	( 3 )	胆嚢・胆管疾患 ( 胆石、胆嚢炎、胆管炎 )								
B	( 4 )	肝疾患 ( ウイルス性肝炎、急性・慢性肝炎、肝硬変、肝癌、アルコール性肝障害、薬物性肝障害 )								
	( 5 )	膵臓疾患 ( 急性・慢性膵炎 )								
B	( 6 )	横隔膜・腹壁・腹膜 ( 腹膜炎、急性腹症、ヘルニア )								
( 8 ) 腎・尿路系 ( 体液・電解質バランスを含む。 ) 疾患										
A	( 1 )	腎不全 ( 急性・慢性腎不全、透析 )								
	( 2 )	原発性糸球体疾患 ( 急性・慢性糸球体腎炎症候群、ネフローゼ症候群 )								
	( 3 )	全身性疾患による腎障害 ( 糖尿病性腎症 )								
B	( 4 )	泌尿器科的腎・尿路疾患 ( 尿路結石、尿路感染症 )								
( 9 ) 妊娠分娩と生殖器疾患										
B	( 1 )	妊娠分娩 ( 正常妊娠、流産、早産、正常分娩、産科出血、乳腺炎、産褥 )								
	( 2 )	女性生殖器及びその関連疾患 ( 月経異常 ( 無月経を含む。 )、不正性器出血、更年期障害、外陰・膣・骨盤内感染症、骨盤内腫瘍、乳腺腫瘍 )								
B	( 3 )	男性生殖器疾患 ( 前立腺疾患、勃起障害、精巣腫瘍 )								
( 10 ) 内分泌・栄養・代謝系疾患										
	( 1 )	視床下部・下垂体疾患 ( 下垂体機能障害 )								
	( 2 )	甲状腺疾患 ( 甲状腺機能亢進症、甲状腺機能低下症 )								
	( 3 )	副腎不全								
A	( 4 )	糖代謝異常 ( 糖尿病、糖尿病の合併症、低血糖 )								
B	( 5 )	高脂血症								
	( 6 )	蛋白及び核酸代謝異常 ( 高尿酸血症 )								
( 11 ) 眼・視覚系疾患										
B	( 1 )	屈折異常 ( 近視、遠視、乱視 )								


目 標			内科	外科	救急部門	小児科	産婦人科	精神科	地域医療	地域保健
B	( 2 )	角結膜炎								
B	( 3 )	白内障								
B	( 4 )	緑内障								
	( 5 )	糖尿病、高血圧・動脈硬化による眼底変化								
( 1 2 ) 耳鼻・咽喉・口腔系疾患										
B	( 1 )	中耳炎								
	( 2 )	急性・慢性副鼻腔炎								
B	( 3 )	アレルギー性鼻炎								
	( 4 )	扁桃の急性・慢性炎症性疾患								
	( 5 )	外耳道・鼻腔・咽頭・喉頭・食道の代表的な異物								
( 1 3 ) 精神・神経系疾患										
	( 1 )	症状精神病								
A	( 2 )	認知症(血管性認知症を含む。)								
	( 3 )	アルコール依存症								
A	( 4 )	気分障害(うつ病、躁うつ病を含む。)								
A	( 5 )	統合失調症(精神分裂病)								
	( 6 )	不安障害(パニック症候群)								
B	( 7 )	身体表現性障害、ストレス関連障害								
( 1 4 ) 感染症										
B	( 1 )	ウイルス感染症(インフルエンザ、麻疹、風疹、水痘、ヘルペス、流行性耳下腺炎)								
B	( 2 )	細菌感染症(ブドウ球菌、MRSA、A群レンサ球菌、クラミジア)								
B	( 3 )	結核								
	( 4 )	真菌感染症(カンジダ症)								
	( 5 )	性感染症								
	( 6 )	寄生虫疾患								
( 1 5 ) 免疫・アレルギー疾患										
	( 1 )	全身性エリテマトーデスとその合併症								
B	( 2 )	慢性関節リウマチ								
B	( 3 )	アレルギー疾患								
( 1 6 ) 物理・化学的因子による疾患										
	( 1 )	中毒(アルコール、薬物)								
	( 2 )	アナフィラキシー								
	( 3 )	環境要因による疾患(熱中症、寒冷による障害)								
B	( 4 )	熱傷								
( 1 7 ) 小児疾患										
B	( 1 )	小児けいれん性疾患								


目		標	内科	外科	救急部門	小児科	産婦人科	精神科	地域医療	地域保健
B	(2)	小児ウイルス感染症(麻疹、流行性耳下腺炎、水痘、突発性発疹、インフルエンザ)								
	(3)	小児細菌感染症								
B	(4)	小児喘息								
	(5)	先天性疾患								
(18)加齢と老化										
B	(1)	高齢者の栄養摂取障害								
B	(2)	老年症候群(誤嚥、転倒、失禁、褥瘡)								
C 特定の医療現場の経験 必修項目にある現場の経験とは、各現場における到達目標の項目のうち一つ以上経験すること。										
(1)救急医療 必修項目 救急医療の現場を経験すること 生命や機能的予後に関わる、緊急を要する病態や疾病、外傷に対して適切な対応をするために、										
1)	バイタルサインの把握ができる。									
2)	重症度及び緊急度の把握ができる。									
3)	ショックの診断と治療ができる。									
4)	二次救命処置(ACLS=Advanced Cardiovascular Life Support、呼吸・循環管理を含む。)ができ、一次救命処置(BLS=Basic Life Support)を指導できる。									
ACLSは、バッグ・バルブ・マスク等を使う心肺蘇生法や除細動、気管挿管、薬剤投与等の一定のガイドラインに基づく救命処置を含み、BLSには、気道確保、心臓マッサージ、人工呼吸等機器を使用しない処置が含まれる。										
5)	頻度の高い救急疾患の初期治療ができる。									
6)	専門医への適切なコンサルテーションができる。									
7)	大災害時の救急医療体制を理解し、自己の役割を把握できる。									
(2)予防医療 必修項目 予防医療の現場を経験すること 予防医療の理念を理解し、地域や臨床の場での実践に参画するために、										
1)	食事・運動・休養・飲酒・禁煙指導とストレスマネジメントができる。									
2)	性感染症予防、家族計画を指導できる。									
3)	地域・産業・学校保健事業に参画できる。									
4)	予防接種を実施できる。									
(3)地域医療 必修項目 へき地・離島診療所、中小病院・診療所等の地域医療の現場を経験すること。地域医療を必要とする患者とその家族に対して、全人的に対応するために、										
1)	患者が営む日常生活や居住する地域の特性に即した医療(在宅医療を含む)について理解し、実践する。									
2)	診療所の役割(病診連携への理解を含む)について理解し、実践する。									
3)	へき地・離島医療について理解し、実践する。									
(4)周産・小児・成育医療 必修項目 周産・小児・成育医療の現場を経験すること 周産・小児・成育医療を必要とする患者とその家族に対して、全人的に対応するために、										


目 標		内科	外科	救急部門	小児科	産婦人科	精神科	地域医療	地域保健
1)	周産期や小児の各発達段階に応じて適切な医療が提供できる。								
2)	周産期や小児の各発達段階に応じて心理社会的側面への配慮ができる。								
3)	虐待について説明できる。								
4)	学校、家庭、職場環境に配慮し、地域との連携に参画できる。								
5)	母子健康手帳を理解し活用できる。								
(5) 精神保健・医療 必修項目 精神保健福祉センター、精神病院等の精神保健・医療の現場を経験すること 精神保健・医療を必要とする患者とその家族に対して、全人的に対応するために、									
1)	精神症状の捉え方の基本を身につける。								
2)	精神疾患に対する初期的対応と治療の実際を学ぶ。								
3)	デイケアなどの社会復帰や地域支援体制を理解する。								
(6) 緩和・終末期医療 必修項目 臨終の立ち会いを経験すること 緩和・終末期医療を必要とする患者とその家族に対して、全人的に対応するために、									
1)	心理社会的側面への配慮ができる。								
2)	基本的な緩和ケア（WHO方式がん疼痛治療法を含む。）ができる。								
3)	告知をめぐる諸問題への配慮ができる。								
4)	死生観・宗教観などへの配慮ができる。								
(7) 地域保健 選択項目 地域保健を必要とする患者とその家族に対して、全人的に対応するために、保健所、介護老人保健施設、社会福祉施設、赤十字社血液センター、各種検診・健診の実施施設等の地域保健の現場において、									
1)	保健所の役割（地域保健・健康増進への理解を含む）について理解し、実践する。								
2)	社会福祉施設等の役割について理解し、実践する。								




## 臨床研修病院群

協 力 型 臨床研修病院	大分大学医学部附属病院			外観 
住 所	〒879-5593 大分県由布市狭間町医大ヶ丘1丁目1番地			
T E L	097-586-5205	U R L	<a href="http://www.med.oita-u.ac.jp">http://www.med.oita-u.ac.jp</a>	
病床数	604床			
診療科目	呼吸器内科、内分泌・糖尿病内科、膠原病内科、腎臓内科、神経内科、消化器内科、循環器内科、血液内科、腫瘍内科、総合内科・総合診療科、精神科、小児科、消化器外科、呼吸器外科、小児外科、乳腺外科、心臓血管外科、脳神経外科、整形外科、形成外科、皮膚科、腎臓外科・泌尿器科、眼科、耳鼻咽喉科・頭頸部外科、産科婦人科、放射線科、麻酔科、リハビリテーション科、歯科口腔外科			
研修実績	血液内科(1ヶ月)、放射線科(2ヶ月)、神経内科(1ヶ月)、腫瘍内科(1ヶ月)、脳神経外科(2ヶ月)、麻酔科(集中治療部)(1ヶ月)			
備 考	平成27年度より1~3ヶ月のたすきがけ研修が可能。			

協 力 型 臨床研修病院	大分こども病院			研修風景 
住 所	〒870-0943 大分県大分市大字片島83-7			
T E L	097-567-0050	U R L	<a href="http://www.oita-kodomo.jp/">http://www.oita-kodomo.jp/</a>	
病床数	40床			
診療科目	小児科、小児外科、皮膚科			
研修実績	毎年1~2ヶ月の研修実績あり			
特 徴	小児専門の救急病院として24時間対応で365日、医療を提供している。小児救急医療に活動の中心を置いているが、予防接種や乳児検診にも力をいれている。			

協 力 型 臨床研修病院	帆秋病院			研修風景 
住 所	〒870-0843 大分県大分市大字大分4772番地の2			
T E L	097-543-2366	U R L	<a href="http://www.hoaki.jp">http://www.hoaki.jp</a>	
病床数	446床			
診療科目	精神科、心療内科、内科、歯科			
研修実績	毎年1ヶ月の研修実績あり			
特 徴	薬物を中心に必要な治療を行っておりますが、更に治療の徹底を期す為に全人的な治療を計り、その他の治療にも重点をおいて患者さんに、自発性や自立性、創造性を創るような指導を行い、精神療法的なアプローチも積極的に行っております。			

協 力 型 臨床研修病院	明野中央病院			外観 
住 所	〒870-0161 大分県大分市明野東2丁目7-33			
T E L	097-558-3211	U R L	<a href="http://www.akenohp.jp">http://www.akenohp.jp</a>	
病床数	75床			
診療科目	内科、消化器内科、整形外科、形成外科、リウマチ科、リハビリテーション科、放射線科、麻酔科			
研修実績	なし			
特 徴	内科を中心とした生活習慣病管理、手術を含む整形外科の専門的治療、回復期リハビリテーションに集中して取り組んでいます。			

協 力 型 臨床研修病院	竹田医師会病院		
住 所	〒878-0025 大分県竹田市大字拝田原 448 番地		
T E L	0974-63-3241	U R L	<a href="http://taketaisikaibyoin.com">http://taketaisikaibyoin.com</a>
病床数	156 床		
診療科目	内科、外科、整形外科、小児科、リハビリテーション科		
研修実績	なし		
特 徴	大分県から平成 26 年 3 月 1 日付で「大分 DMAT 指定医療機関」の指定をさらに平成 28 年 4 月 1 日付で「二次救急指定病院」および「へき地医療拠点病院」の指定を受け、救急医療体制の強化にも尽力しています。また、マムシやムカデ咬傷等、豊肥地区ならではの診療も行っています。		

外観



臨 床 研 修 協 力 施 設	みぞぐち産婦人科医院		
住 所	〒870-0952 大分県大分市下郡北 3 丁目 24 番 21 号		
T E L	097-569-7770	U R L	
病床数	16 床		
診療科目	産婦人科		

外観



臨 床 研 修 協 力 施 設	佐賀関病院		
住 所	〒879-2201 大分県大分市大字佐賀関 750 番地の 88		
T E L	097-575-1172	U R L	<a href="http://sekiakai.jp">http://sekiakai.jp</a>
病床数	90 床		
診療科目	内科、循環器科、呼吸器科、消化器科、小児科、整形外科、外科、肛門科、耳鼻咽喉科、眼科、リハビリテーション科		
研修実績	毎年 1 ヶ月の研修実績あり		
特 徴	急性期疾患の治療だけでなく、プライマリ・ケアや慢性期疾患の治療、地域リハビリテーションに力を入れ、栄養サポート（NST）活動も盛んで、地域包括医療・ケアの推進や地域貢献を運営理念とした地域に根ざした医療の展開をしています。		


研修風景





臨 床 研 修 協 力 施 設	ハートクリニック		
住 所	〒870-1136 大分県大分市光吉台 17-280		
T E L	097-586-5446	U R L	<a href="http://www.heart-cl.com">http://www.heart-cl.com</a>
病床数	19 床		
診療科目	内科、循環器内科、消化器内科、呼吸器内科、形成外科、皮膚科		
研修実績	毎年 1 ヶ月の研修実績あり		
特 徴	機能強化型の在宅療養支援診療所として、通院困難な患者を希望により自宅や施設での療養を支援し、現在在宅患者数は 180 名を数える。在宅ケアではケアマネージャー、介護士、施設スタッフ等多職種連携が重要であり注力している。		


研修風景



臨床 協力 施設 研修	津久見市 保戸島診療所			外観 
住所	〒879-2501 大分県津久見市大字保戸島 880-1			
TEL	0972-87-2320	URL	なし	
病床数	なし			
診療科目	内科			
特徴	週4日、健康診断に関すること、予防接種に関すること、医療相談、健康相談及び介護相談に関すること、地域住民の健康維持及び増進に関する業務を行い、一日外来数は50名を数えており、地域住民・医師・スタッフ等常に接し、治療治療後ケアをし、島民の安心安全の要の施設として島民の信頼を得ている。			

臨床 協力 施設 研修	岩永レディスクリニック			研修風景 
住所	〒874-0932 大分県別府市野口中町 4-23			
TEL	0977-23-4371	URL	<a href="http://www.iwanaga-lediesclinic.gr.jp">http://www.iwanaga-lediesclinic.gr.jp</a>	
病床数	19床			
診療科目	産科、婦人科			
研修実績	毎年1ヶ月の研修実績あり			
特徴	周産期医療においては、別府市を中心として速水杵築地区、湯布院地区の一次周産期施設として妊娠、出産、子育てに関わっている。妊娠、出産については、その安全性と快適さの確保に力を注ぎ、施設・設備・スタッフの充実を力を入れている。生殖医療面では、不妊症基本検査から人工授精(AIH)までを実施しており、不妊症治療の一次施設として積極的な医療を行っている。			

臨床 協力 施設 研修	介護老人保健施設 健寿荘			外観 
住所	〒879-5501 大分県由布市狭間町大字鬼崎 4番地の1			
TEL	097-583-0051	URL	<a href="http://www.hoaki.jp/h-kenjyu.html">http://www.hoaki.jp/h-kenjyu.html</a>	
定員	入所定員 100名 / 通所定員(通所リハビリテーション) 40名			
研修実績	帆秋病院、精神科デイケア、誠心寮(グループホーム)、訪問看護ステーション、介護保険サービスセンター「暖家」、在宅介護支援センター「サポート」			
特徴	(1) 地域に開かれた明るい施設 (2) リハビリテーション・認知症ケアの充実を目指している (3) 多くの実習生・ボランティアを受け入れている			

臨床 協力 施設 研修	社会福祉法人 太陽の家 身体障がい者支援施設 ゆうわ			外観 
住所	〒879-1504 大分県速見郡日出町大字大神 1402-6			
TEL	0977-72-1665	URL	<a href="http://www.taiyonoie.or.jp/place/hizi/yuuwa">http://www.taiyonoie.or.jp/place/hizi/yuuwa</a>	
施設	個室30室、2人部屋25室、機能訓練室、医務室、静養室、多目的室ほか			
特徴	日常生活で常時介護を必要とするが、家庭では受け入れることが困難な身体障がい者を対象としている。専門的な知識を持つPT(理学療法士)がリハビリテーションやレクリエーションなどを行い、家庭的な雰囲気の中で明るく楽しい生活ができるよう配慮している。また、ショートステイのための部屋が2床あり、在宅の障がい者の方が利用している。			

臨 協	床 力	研 施	修 設	<b>東部保健所</b>			
住 所				〒874-0840 大分県別府市大字鶴見字下田井 14-1	T E L	0977-67-2511	

臨 協	床 力	研 施	修 設	<b>南部保健所</b>			
住 所				〒876-0844 大分県佐伯市向島 1-4-1	T E L	0972-22-0562	

臨 協	床 力	研 施	修 設	<b>北部保健所</b>			
住 所				〒870-0024 大分県中津市中央町 1-10-42	T E L	0979-22-2210	



社会医療法人恵愛会 大分中村病院

